

第三部 KOKÔ塾に寄せて- 関わってきた人の思いを聞く

村田：今日は皆さんご参加いただきましてありがとうございました。本日は、60人以上の方にご参加いただきました。

チャットにもすごくたくさんのご意見とご感想を出して頂いていまして感謝しております。

それでは残り時間少なくなりましたが、第3部 KOKÔ塾に關わってきた地域や先生OBたちの思いを受けとめあうということで粉河高校会場を中心に進めていきます。

皆さん、今日の感想や意見をどうしても言いたい方から声をあげてもらったり先ほどどのZoomのサインを送っていただいても結構です。

それでは早速に口火を切っていただきたいのですが、どなたか粉河高校の先生でKOKÔ塾に關わってきた思いや今日の感想言っていただける方がおられましたらご発言お願いします。

南先生いかがですか？

南：南です。はい感想、ちょっと急なふりを頂いたので、まとまってもいないんですけど、個人的には生徒のみんなが自主的に身につけた能力っていうことがいろんな文脈から評価されていたのかなという風に思います。

多分学力って、使える能力であって欲しいなあというのは僕ら教師の願いでもあり、それがKOKÔ塾の活動で生徒の成長が可視化されるっていう状況を見せてもらえた中で確認できたのかなという風に思っています。ちょっと急に振っていただいたんで、これ以上今しゃべれないのでも、また思いついたら発言させていただきます。ありがとうございます。

村田：無茶ぶりの村田で多分有名だと思いますので。第一部では、串本古座高校の西岡先生、元粉河高校の生徒さんで、KOKÔ塾情報班として活躍し、現在26歳となった青年教師のこれまでと今をご発言いただいたんですね。

KOKÔ塾19年、来年度20年を迎えるKOKÔ塾は、とても多くの成果をうんでいます。その中にひとつだけあげるとすると西岡先生のように元KOKÔ塾生が、様々な社会の現場に出て活躍され、今回のように先生になって登場していて高校生達の前に再び現れている。

さらに言えば、地域との関係をつくっていく実践者の先生として再登場している。これは、KOKÔ塾にとっての大きな成果だと思っています。

実は西岡先生と同様に粉河高校にも今年度田中先生と言う元KOKÔ塾高校生が登場しています。田中先生から一言もらいたいと思います。よろしくお願いします。

田中：ただいま紹介していただきました田中です。さきほど紹介いただいたように、僕は2009年に卒業しました。

今日は粉河高校の教師であると共に、ずっとKOKÔ塾のファンであり、KOKÔ塾の元門下生でもあるという立場で参加させてもらいました。

母校に帰ってきて、KOKÔ塾に関わりたいたなと思っていた矢先今年度はコロナの影響あまり活動できてなかったので、本当に残念で仕がないです。自分がKOKÔ塾をやっていて発表した時も楽しかったですけども、それ以上にというか、今日発表された3年生の二人2年生にいろ

んな話聞いて面白くて、堂々として「すげーな」と感じました。

印象に残ったことを一つだけ言わせてもらうと、松原さんの大人と話すことが全然怖くないっていうか、違和感なくてということを話したと思うんです。

それが KOKÔ 塾で身につけることができるひとつの力なのかという風に思って、今日はその答えを一つ得たような気がします。

「よそ者・若者・ばか者」という話もあつたと思うんですけど、勉強しないばかはダメやと思うんですけど、高校生として勉強して欲しいんですけど、ある程度教養つけて、いい意味で空気を読まずやりたいことを発言できる、発言したことを実行できる力が KOKÔ 塾で身につく力の一つなのかと思います。そういう生徒の成長を今後ぜひ粉河高校の教員として関わって見ることができたら嬉しいなと思いました。ちょっとまとまっているんですけど、ありがとうございました。

村田：ありがとうございました。それでは林さんどうですか、まさ先生。

林：こんにちは。林です。非常に嬉しい思いで今日も参加させて頂いています。

私は高校の時も粉河高校でして、粉河で勤めさせてもらうのは 2 回目なんやけれども、ここ数年 3 年生を担任することがあって、3 年生が進路面接の時にも、誇らしげに粉河の特徴である KOKÔ 塾のことを多くの生徒が語ってくれます。

KOKÔ 塾に参加して地域との交流ができたことをとても誇らしげに自己 PR とか、プレゼンに活用しているのを見て、ああやっぱりすごい活動やなあ、というのを感じています。

KOKÔ 塾の活動ですが、私は、ずっと福祉班を担当させてもらっているのですが、幼稚園の子から高齢者までいろんな方々

と接して、生徒たちが粉河の地域へ歩いていく姿、粉河の町が活気づくんですね。地域の人が非常に喜んでくれる。

かつては、粉河駅からちょうど粉河寺へ行くど真ん中にとんまか通りの商店街。粉河へ行ったら無い物はない、皆揃うというくらい活気づいていた粉河が、今ちょっとシャッター街で本当に寂しい思いをしているのですが、この地域の中にある粉河高校が地域において、そして高校生が歩く、高校生が参加することで地域の人がすごく喜んでくれる。こんな取り組みをずっと続けていってもらえたならあと応援しています。以上です。

村田：ありがとうございました。ここでちょっと視点を変えまして、和歌山大学からも参加させていただいています。

和歌山大学佐藤先生どうでしょう。今日会場にお越しになっておられます。

佐藤：はい、聞こえますでしょうか。私、佐藤と申します。KOKÔ 塾の活動を見せていただきまして、生徒が主体的になって活動しているというのを見て、なかなか他にはあまりないような活動だなと思いました。

私は和歌山大学に来て、時間が浅いので、この活動を知るのも短い時間なんすけども、これまでの取り組みというのが積み重なって今の活動になっているんだなあというふうに思ってこの発表を聞かせていただきました。

特に、先ほどもでていたように、高校生が大人と話すのがうまく何というか恥ずかしくないというか、しっかりできるようになつたという話というのは、やっぱりこういう活動をやっていたからできるようになったというのは KOKÔ 塾の力じゃないのかなと思います。

村田：ありがとうございました。それでは和歌山大学で聞いていただいている先生方、金川先生おられますか？

金川：はい、おります。

村田：はーい、ありがとうございました栄谷でご参加ですか？

金川：えっとね、今日は自宅からです。

村田：ああそうですか。一言どうぞ。先生、ご感想などを。

金川：村田先生からいつも KOKÔ 塾のお話を聞かせて頂いていて、私は福祉をやっておりますけれどもいつもすごいなーっていうふうに聞くだけで、思っておりました。今日実際の活動の取り組みを見せて頂いて、高校生の皆さん方の力強さを感じました。

私は地域福祉のポイントは「人育て、ネットワーク育て、まち育て」。3つの育ての循環が回ることというふうに言っているんですね。

人育てっていう点ではもう本当に KOKÔ 塾の卒業生の方が登場しているというふうなところ。

そしてネットワーク育ては、やはり、とんまかを中心として、あるいは他の福祉での保育所との連携盛りのことであるとかそういう形のところで、連携がすごく繋がっているんだなというふうに思いました。

そして、それがその一つの、この地域の町の姿になっているんだなあというふうに、非常に頼もしい連関というのを感じました。

高雄先生がチャットに書かれているようにみなさんの活動はドイツでもとても反響があると思います、というふうに書かれておりました。世界に誇れる活動なん

じやないかな、これから活動、まさに20年迎えての活動に期待しています。以上です。

村田：ありがとうございました。串本古座高校からも関係者の皆さん方が参加いただいているので、堀君どうですか？

串本古座高校を卒業して社会へ出て、今日参加してくれました。

今日の感想、一言お願いします。

堀：はい、そうですね、僕も今回 KOKÔ 塾というのは初めて聞きましたが、いろいろな粉河高校の活動を聞かしてもらって、地域に貢献しているというのがすごくわかりました。

それで母校の CGS 部に関しても、少し粉河高校と近いかなという感じがしたのでこれからもがんばってほしいと思いました。以上です。

村田：CGS 部、堀さんも高校時代に経験されましたよね？

堀：はい。

村田：ありがとうございました。

今私の画面で静岡大学から阿部耕也教授がご参加いただいているのがわかります。

先日静岡大学のお声がけで和歌山大学が参加させていただき開催された「半島フォーラム」という催しがオンラインで開催されました。ここで、私も「高大地域連携による地域発展学習」と題して串本古座高校と KOKÔ 塾を事例に発表させていただく機会を得ました。

こうしたご縁とご自身のご関心から本日もご参加いただいたものと思います。阿部先生今日のご感想ありましたら一言お願いいたします。

阿部：お世話になります、静岡大学の阿部ですが聞こえていますでしょうか？全部のご報告を聞く時間はなかったのですけれども、やはり KOKÔ 塾が持っている継続性と循環性と言うんでしょうか、それを非常に印象深く聞かせていただきました。実は静岡大学も伊豆半島諸島、そういう場所で大学生がフィールドワークに入って高校生と連携をするって場面が多いのですけれども、単なるイベントになって、その先に継続的になっていくのがなかなか難しいという時に、長い期間をかけて学び合いがあって、KOKÔ 塾で学んだ高校生たちが何人か先ほどもご発言いただきましたけれども、今度は支える方にまわるというのはそういう循環があるって言うのは非常に大事なことで、継続的な営みが進んでいくためには欠かせない所だと思って、非常にそれは羨ましく思いますし、また、それを維持するために、そういう風にするために、どんな活動がなされてきたのかつていうことに大変興味があります。

ありがとうございました。

村田：ありがとうございます。

辻合さん、和歌山大学卒業後大学院は別大学へ行かれまして、今社会人1年生。どうでしょう？今日の感想一言お願いします。

辻合：こんにちは皆さん、社会人の辻合です。大学を卒業しても KOKÔ 塾と再会できたことを嬉しく思っています。

それはやっぱり今を生きる高校生たちの活動や存在が、自分をまた KOKÔ 塾に呼んでくれたんだなと思っています。

KOKÔ 塾ってやっぱり本当に ESD をつくる、ないしは今ある地域にある ESD に参加していく活動だなあと改めて思いました。そういう活動が地域にあること、また自分自身は、今は大阪府の八尾市で働いているのですけれども、和歌山の方でもユネスコ

の活動を少しあせて頂いています。

自分の高校は進学校で、KOKÔ 塾のような本物の学びがなかったような経験をしています。大学に入って KOKÔ 塾に出会って、KOKÔ 塾を取り戻すかのように大学でサークルを創って、KOKÔ 塾のまねをして、今、社会人になって、和歌山のユネスコの活動で KOKÔ 塾をまだ追いかけている人間なので、高校生のみなさんまたは非卒業した時には和歌山のユネスコの活動とか、また地域にある地域に根付いている ESD の活動とかに参加していたら、またいろいろ教えてください。

村田：ありがとうございます。久しぶりにお顔を見ました。それではね、串本古座高校から西岡先生の先輩、清野先生もご参加いただいています。

清野先生は地域との関係を非常に丁寧に紡いでこられています。一言お願いします。

清野：こんにちは、串本古座高校の清野です。私たちの学校の CGS 部はもしかしたらこの紀南版の KOKÔ 塾っていうのを目指しながら、今、走っているのかもしれません。

CGS 部ですが、4年目の高校クラブですから、これから先 KOKÔ 塾がこんなに長い間持続可能にしてきていろいろなことをまた今後とも教えていただいたらと思っておりますのでどうかよろしくお願いします。

村田：ありがとうございました。それでは粉河高校の幡井先生おられましたね？

幡井：はい、います。一番後ろからで申し訳ないです。僕は KOKÔ 塾に10年間関わらせてもらってきたんですけど、10年間、生徒がすごい発言力とか身につけてきてすごい活動やなあと思っています。僕自身

も他のクラブももちろん大変なことであったのですけども、やっぱりその生徒の成長を見ると、やってきて良かったのかなあと非常に思う次第です。今後どうKOKÔ塾は変わっていくかわかんないのですけども、これからもどんどん発展していってくれたらと思っています。以上です。

村田：最後の一人ですが、新宮高校に異動されて、新宮高校でもKOKÔ塾をやりたいと話しておられる岡田先生どうですか？岡田先生どうぞ皆さんに久しぶりですでのお顔を見てあげていただけたらと思います。

岡田：ご無沙汰しております。KOKÔ塾に7年間携わらせていただき、新宮高校に異動して7年間、一度も参加できず申し訳ありませんでした。

私は、まあ3日に一回はKOKÔ塾の事を思い出しまして、それぐらい常にKOKÔ塾での取り組みが自分の頭のなかで鮮明に残っています。今の自分の教育の在り方をつくってくれているというか、それに繋がっているのかなって思っています。

今、自分は新宮高校ですけれども、串本古座高校が隣にありますので、この東牟婁、新宮の地域からも、地域と学校のつながりをもっと深めていって、もっと地域が元気になるような活動を続けていけたらと思っていますので、これからもよろしくお願いします。以上です。ありがとうございました。

村田：ありがとうございました。

先ごろ和歌山県教育委員会主催「マナビリスト支援セミナー」という事業ですが、串本古座高校と地域の皆さんと一緒に学ぶ成人の教育ゼミに岡田先生が参加されました。

新宮高校で開催されている外国にルーツを持つ人たちの学びの場にも関心を寄

せて、地域の皆さんと「きのくに学びの教室」の人たちが交流して十ヵ国の方々が新宮市にお住まいになっていることも調査されました。

地域の人ともっと話したいしもっと触れ合いたいしもっと分かりたい。この美しい地域の自然、もっと知りたいという交流の場で話されたことを、研究成果として発表され、実は岡田先生も熱心に研究を進められました。

今日ご参加頂いている紀南教育事務所の小賀社会教育主事にもサポートいただきました。和歌山県内で人々が学びあう場をつくりながら、先ほど私も言わせていただいたように人が成長することに関わるようなところに身を置いて地域社会の中に人が育ちあう場を一生懸命作り出していくことが重要であると思います。

村田：KOKÔ塾事務局として長年携わられ、退職後も地域の一員として参加されて高校生と共に学びつづけておられる加藤さんいかがですか？

加藤：KOKÔ塾で育った元粉河高校生が高校教員となって、実際に今KOKÔ塾の経験をいかしながら指導していて、嬉しいなと思っていました。

今日の発表の中で松原さん、水口くん2人が教員になってKOKÔ塾のようなことをやりたいと思っていることを知って、この活動が繋がっていくんやなと思って嬉しくなりました。

村田：それでは大変短い時間でしたが第3部KOKÔ塾に携わってきた人たちの思い、そこから学んでいる方たちにお話しいただきました。

今会場内で横出先生から生徒の声が聞こえていないとご指摘があったので、生徒さんの感想をちょっと最後に聞きたいと思います。生徒さん方いかがですか？

私生徒さんのお名前がよくわからないので進行を横出先生にバトンタッチして生徒さんから少し意見、感想を聞いてください。

村田：何か言いたい方はおられますか？今日参加をした感想などあの1分スピーチぐらいでお二方かお三人ぐらいから受けたいと思います。短めの1分スピーチということでいかがでしょうか。どこか手を挙げてる？串本古座高校どうぞ。高校生。

上田：串本古座高校2年の上田です。僕が串本古座高校に入学してからまだ2年ぐらいなんですけど、皆さんプレゼンテーションやってた方もとてもうまくて、僕もそれぐらい上手くなりたいなと思いました。

それで串本古座高校では今は子どものところにボランティアに行ったりしているんですけど、老人の方々とも交流とかあつたらいいなと思いました。ありがとうございます。

村田：今日を機会に両校の高校生が交流を深めて、お互いに学びあっていくと、もっといいと思いました。ありがとうございました。他にありますか。いいでしょうか。それでは、予定の時間も来ていますのでお名残惜しいですが第3部もここで一旦終了させていただきます。

皆さん、どうもありがとうございました。高雄先生貴重なご講演とともに、最後までお付き合い頂きましてどうもありがとうございました。

この日は、地元粉河の地域の皆様、自治体関係者の皆様をはじめ、和歌山現役学生、教員、大学OB、静岡大学関係者等、70名のご参加をいただきました。



粉河高校生徒たちの感想



2019年盆踊り復活プロジェクト

1年 安田 遥

最後の高校生からの感想を問われたとき、手を挙げたほうが良かったと後から後悔しました。少し前に発言したし、私ばかり発言するのもどうかと思ったのですが、やっぱり手を挙げたほうが格好良かったです。次回こそ、たくさん考えて、発言して、議論して、活動したいです。興味深い話がたくさん聴けて本当に有意義な時間になりました。

今日得たことを、これから KOKÔ 塾に生かしていきます。

先生方、関係者の方々、ありがとうございました。

2年 岩本 真唯斗

今日のジョイント・フォーラムでは、自分は発言することはなかったが次からはこのような機会があったらもっと発言しようと思いました。

2年 湯川 仁菜

今日は、ジョイント・フォーラムを通してドイツの学校の制度や、学生たちが起業しているという驚愕な話を聞かせていただき、さらにその活動を支援している大人の方々が多数いることを初めて知りました。話を何時間もリモートで聞くという体験はあまりなかったので、とても疲れましたが、それ以上に生きていくうえで有益な情報や、支え合いの重要性を再確認することができました。そして高校生が、主体となって地域を率先して活性化することによって地域が盛り上がっていくんだなと思いました。

最後に、KOKÔ 塾は 20 年も続いていることが本当に凄いことだなと思いました。20 年も一つのことを継続するということは、一筋縄ではいかないことだと思うので、人とのつながりを大事にこれからも生きていきたいと思いました。

2年 窪田 愛稀

今回のジョイント・フォーラムで一番驚いたのは、ドイツの教育制度についてです。

小学校は 4 年生までで、そこから進学、商業、工業と将来について早い段階で決めなければいけないことです。また、先生よりも親の方が距離が近く、子供もその道を進むことが多い

いのはびっくりしました。

日本は、親よりも先生のほうが、距離が近く先生に影響されやすいと思います。

日本とドイツの教育はこんなにも違うことが分かりました。

串本吉座高校のCGS部の活動はとてもKOKÔ塾に似ていて、また交流できたらいいなと思いました。

2年 西林 美晴

こんなにたくさんの人の前で発表したのは初めてでとても緊張しました。

KOKÔ塾をやっていないと、こんなたくさんの大人の人の意見が聞けないのでやっていてよかったですなと思いました。話はちょっと難しかったけど面白かったです。

次は私たちが主になっていくので頑張ろうと思いました！

2年 坂本 莉穂

今日はジョイント・フォーラムに参加して、人との関わりはすごく大切なことだと改めて分かることができました。三年生の先輩が話してくれたように、自分も大人の人と話すときや、人前で話すときに緊張せず堂々と話せるようになれたらいいなと思いました。

2年 池田 愛瑠菜

今日は色々な学校の取り組みを知れてとてもよかったです。

KOKÔ塾はたくさんの人の人のとかかわりがあって成り立っているのを改めて感じることができました。

ドイツでは、10歳から将来のことを考えて選択するのを初めて知って、凄い大きな決断だなと思いました。私も今後ふるさとについて学びたいなと思いました。地域に貢献していくたいと思います。オンラインも初めてだったので少し緊張しました。

また参加させていただきたいと思います。

2年 稲垣 明日香

今日は、今までと少し違うリモートで沢山の人と交流し、沢山の話を聞くという貴重な体験がけてとても良かったです。

自分が今まで知らなかった活動、仕組みなど知ることができました。国境を越えたところでの日本とは違う教育の仕組みにとても驚きました。自分の能力に合った学習をすることは、とても良い事だと感じました。自分には少し難しい内容でしたが、今どこで何が起こっているのか知ることができました。

自分たちの活動がもっとたくさんの人達に広がったらいいなと思います。

2年 鈴木 瞳花

今日 KOKÔ 塾のジョイント・フォーラムに参加して沢山学ぶことがありました。世界の進学の仕方や OB の方たちのお話など本当にすごく勉強になりました。十代のころから企業をおこしたりと、本当に感心ばかりでした。

2年 西風 陽向美

今日は色々な事をたくさん知れてよかったです。難しいこともたくさん出てきたけれどジョイント・フォーラムに参加できてよかったです。十代の頃から企業を起こすと聞いてとても驚きました。もし日本にもそのようなのがあれば少し不安ですが、やってみたいと思いました。
元まちづくり班リーダーの松原さんの発表は凄く、分かりやすかったです。原稿なしでしかも人前に立って発表できるはすごいことだと思いました。

2年 杉本 京加

去年から、コロナウイルスにより活動ができなくなり 1 年生の時に参加できなかった活動や、反省する部分などもあったので 2 年生になったらこうしたい！と目標を立てていました。今日の発表などを聞いて改めて自分が成長できるように積極的に取り組んでいきたいと思いました。去年の活動の振り返りや他のグループの活動内容などたくさん知ることができ、これからは普通に活動するのではなく、自分には何ができるかをよく考えて活動していきたいです。

2年 伊塚 優汰

今回ジョイント・フォーラムを受けて自分が思ったことは、まず一つに、ドイツと日本の教育に大きな違いがあることに驚きました。ドイツでは部活がなく、更には試験や進学に関しても日本と違い、自分に合ってそうでした。これから KOKÔ 塾の活動を独自の視点で頑張ろうと思います。

2年 山本 若菜

今日は、今年初のジョイント・フォーラムで新しい形で ZOOM を使ってカメラを通してしました。各グループのリーダーの発表はとても皆さん堂々としていてすごいと思ったと同時に私もそのようなことができるようになりたいと思いました。

串本高校の皆さんやドイツの活動など、たくさんのプレゼンテーションはとてもわかりやすく、見やすくてすごいなと思ったし、尊敬します。

わたしも引き継いでこのような発表をできるようになりたいと思いました。

2年 鈴木 優奈

3年生の先輩方のスピーチを聞いていて、あんなにハキハキとスピーチ出来ていて、すごいなあと思いました。また、ドイツと日本では全然違っていて、高校生が起業しているということにビックリしました。リモートすることで、いろんなひとの意見がたくさん聞くことができて為になったと思います。

2年 高倉 綾

今日のジョイント・フォーラムで、先輩達や先生の話を聞いて、とてもいい経験ができました。今日の活動を活かしてこれから活動を積極的に行っていきたいです。

ドイツの教育の仕組みにすごく衝撃を受けて、他の国の教育の仕組みについて知りたいと思いました。

2年 森本 葉凪

この活動で改めて KOKÔ 塾の凄さがよくわかりました。先輩達の話やたくさんの先生の話も聞けて、とてもいい経験をすることができました。今日の活動を生かしてこれから活動も積極的に頑張っていきたいです。

ドイツの教育の進み方にもすごく衝撃をうけて、聞いていてとても面白かったです。

2年 紺谷 達也

今日の活動でまた改めて KOKÔ 塾のすごさ、すばらしさを感じました。

この活動で初めて串本古座高校でも同じように地域と連携して地域を活性化しているのだと知りました。互いに頑張っていけたらと思いました。

KOKÔ 塾にかかわっていただいている方がこんなにも全国各地にいらっしゃってとてもありがとうございました。また粉河高校の活動が全国に知られているんだと思い、うれしく、誇らしく思いました。

2年 山本 琉心

短い時間だったけど、とても内容の濃い話ばかりでたくさんの刺激を受けた。串本古座高校の取り組みやドイツの学生の活動など、私と同じ年の子たちが KOKÔ 塾に似た活動をしているんだと思うと、私も頑張らないと、という思いが生まれた。

KOKÔ 塾が 20 年も続いてこられたのは、地域の皆さんや和歌山大学の方たちの協力があったからだと今回のジョイント・フォーラムを聴いて改めて感じた。

2年 上須 優葵

卒業された三年生の先輩方の一人が KOKÔ 塾のおかげで原稿がなくともしっかり発表できるくらいに成長できたのだとおっしゃっていて、自分もそのくらい成長できるだろうかと

いう不安と期待を感じました。新型コロナウイルスの影響で、一年間活動を行えなかつたことで失った時間と経験はどうしようもありませんが、今年からその経験に負けないものを得られるように頑張りたいと思いました。

ドイツと日本の教育の差について初めて知り、私は自ら話すことが苦手なので、大学入試の制度を知り驚いたと同時に日本の教育を平等でいいものだとおもいました。

感想 潮崎 遥

三年間 KOKÔ 塾に参加して人前で話すのに慣れたかなと思っていたけれど、今日のめいの発表を聞いてまだまだだなと思いました。

でも、やらなかったよりやってよかったと思ったことが私にとって財産になりました。粉河にきて KOKÔ 塾にはいってリーダーになってたくさんの経験ができました。ありがとうございました。

感想 松原 女依

元々自己肯定感が低い私ですが、KOKÔ 塾のおかげで自分に自信がつき、それによって自己肯定感も少しあは上がった気がします。

発表の時も言いましたが、いろいろな活動を通して自分自身の成長を感じられました。しかし、自分自身が変わられただけでなく、これから課題も見つかりました。それは、話題にもあがつた『常識にとらわれない、ばかもん』を意識することです。自分で言うのもなんですが、真面目に取り組んできた分、私が行ってきたことに面白みは足りなかつたと感じています。それに気づかせてくれた友人と出会いの場にもなつた KOKÔ 塾にはやはり感謝しかありません。

これから、教育学部に進みますが、自分からなにか行動に移して、いい意味で目立つ人間になりたいと思います。

■ 参加者の感想・ご意見（チャットから）

- ・生徒のおかげで、地域の人たちと交流を広げられました。ありがとう（粉河Y先生）
- ・高校生が起業することを先生が支援していることに衝撃を受けました（粉河高校Y先生）。
- ・ドイツの学習制度について様々なことを知ることができました。日本にも生徒起業のできる制度や学校があればチャレンジしてみたいとおもいました。（和歌山大学OB）
- ・日本に比べドイツは、子どもが進路を考える機会が早くから与えられており、経済や社会の情勢につき敏感なのかなという印象です。10歳で大きな決断をするわけですが、その後気持ちが変わったということもあるかと思われますが、そこは気になるところです。
(和歌山大学学生)
- ・53歳高校生の母親です。マナビスト講座で2年間串本古座高校生の高校生との交流がありました。CGS部という存在や地域のコーディネーターの存在と特色のある活動をもっと知ってもらいたいと思いました。地元の高校を卒業して子どもは進学します。西岡先生のように高校時代の活動が今は教育現場で活躍されるようになられていること。ただ一方的な授業を受けるというのではなくしっかりと考えて行動できることが大切だと思いました。子どもが小学6年生の時にふるさと学習をきっかけに国連大学での発表の機会がありESDについて知りました。地域との関係ではドイツの話がとてもすすんでいるように思いました。
- ・元和歌山大学の卒業生で、KOKO塾に出会い、学び続けているTです。
生徒さんたちの報告、高雄さんの報告とともに、大きく力強いものを感じます。このような会に参加でき、また、このような学びの場がKOKO塾によってつくられていることが凄いと思っています。いつかまた、高校生のみんなが活き活きと活動を創る中に、混ぜてもらえる日を心から楽しみにしております♪（和歌山大学OB）
- ・本日はお疲れさまです。当初から19年関わらせて頂いております和歌山大学教員足立です。あの時の生徒さんが今は先生になって発言されている。感無量です。地元の方、生徒さん、先生方、山口先生、皆様、お疲れさまでした。持続可能な取組みになりましたね。

講師の高雄綾子先生より

ありがとうございました。ドイツよりも日本の学校はずっと生徒と先生の関係が近く、先生の影響がとても大きいと思います。ドイツはそうではなく、親の考え方の影響が大きいので、同じ学校に通っていても格差が大きくなりがちです。ましてや商業系、工業系高校からは、這い上がっていくのは困難です。そのような課題を持ったドイツ社会の中で生徒企業がとても注目されています。皆さんのお活動はドイツでとても反響があると思います。

資料

第1回 KOKÔ 塾企画運営委員会を受けて

2020.10.31 第2回企画運営委員会 決定

1. 第1回企画運営委員会で出された意見の要約

- 校長の説明……生徒数の減少が和歌山県そしてこの地域でも見込まれること。その中で、粉河高校の特色を明確化することが必要。
 - ・『総合的学習の時間』から「総合的探求の時間」へ。
 - ・「総合的探求の時間」では、KOKÔ 塾の取組を発展させた「KOKÔ 学」を来年度の1年生から創設する。(KOKÔ 塾との関連を生かして、主体的に課題を発見し、解決する力を養う。)
 - ・7限授業の実施や令和4年度からの新学習指導要領の関係から、学校の体制としては、教員の負担を軽減するため KOKÔ 塾をクラブ化する必要がある。
 - 参加者の意見
 - ・KOKÔ 塾とは何かをもう一度考える必要がある。クラブ化することで、今までのKOKÔ 塾の良さを継続できるのか疑問である。
 - ・クラブ化した場合、人数が集まらなくなるのではないか?
 - ・学校づくりと地域づくりを一体で学ぶ KOKÔ 塾が今こそ必要になっている。
 - ・KOKÔ 塾は教員のボランティアで進めてきたが、今後は今の体制の継続は難しい。
(教員)
 - ・持続可能な KOKÔ 塾の在り方を検討することが必要ではないか。
 - ・KOKÔ 塾は、学校だけでなく地域・和大・粉河高校と三者で築いてきたので、学校だけで結論を急がず、三者が納得できる話し合いが必要ではないか。
 - ・KOKÔ 塾が一クラブになった場合、大学や地域がこれまで通り連携を継続できるか、それぞれの意向を確認する必要がある。
 - その他
 - ・今年度のオープンカフェは開催中止。
 - ・ジョイントフォーラムは、生徒発表は難しいが、生徒間の接続・継承から実施したい。
 - ・オープンカフェなどの活動基金を山崎邸「創カフェ」に寄付すること。
- 以上、様々な意見が出されたため、一度の説明で終わらず第2回企画運営委員会を開くことを決定した。

2. 検討会のまとめ、原案について

以上の第1回企画委員会の内容を受けて、第2回企画運営委員会への原案作成のため、地域:山口裕市、和歌山大学:村田和子、学校:横出により本日まで3回の検討会を行った。(第2・3回は田中教諭も出席)

1) 上記検討会のまとめ

- ① 粉河高校の諸事情から、KOKÔ 塾を継続するには高校においては「クラブ化」の位置づけはやむを得ないという考え方で合意した。
- ② そのうえで、高大地域連携による KOKÔ 塾の良さを残しつつ、「KOKÔ 学」への貢献を含めて新たな発展が可能な方向を探る。

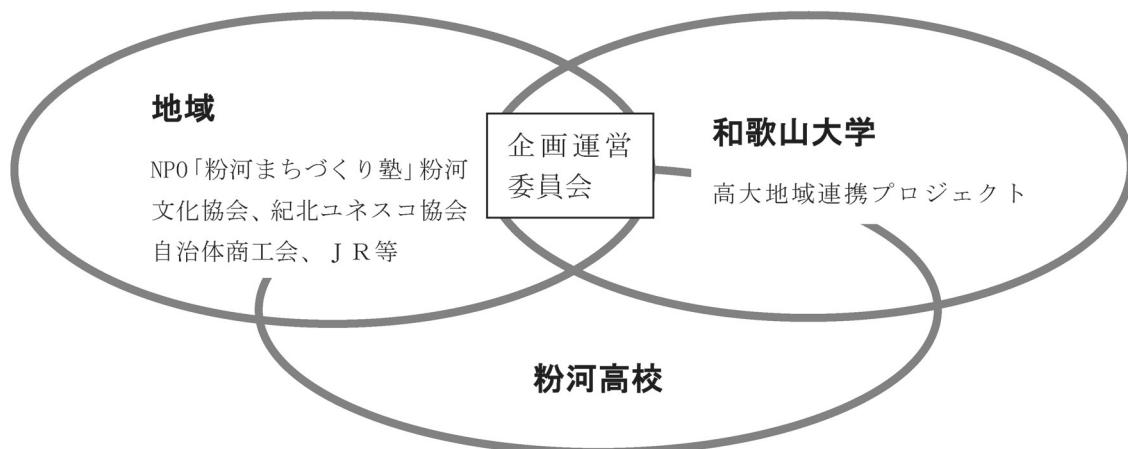
そのうえで、次のように提案したい。

- ・これまで KOKÔ 塾の高大地域連携事業の方針づくりを担ってきた「企画委員会」を「企画運営委員会」とあらため、今まで参加してもらっていた大学・地域との連携を存続、発展させ、全体の窓口的機能を果たせるようにする。
- ・オープンカフェなどのイベントは、先ず全校生徒に呼びかけ、さらに他クラブとの連携を行いながら「実行委員会」を組織して、企画・運営にあたる。
- ・学校に対しては、KOKÔ 塾を担当する正顧問は兼職無しにし、副顧問は複数配置するよう働きかける。また4月からの1年生への勧誘については、クラブ紹介以外にもオリエンテーションや KOKÔ 塾はクラブ化しても『KOKÔ 塾部』にはせず、今まで通り『KOKÔ 塾』とし、基本的な理念である「地域に根ざし、地域とともに歩む学校」「本物の学び」「教授も地域の大人も教員も生徒も同じ立場で『学ぶ』こと」「活動は、奉仕活動ではなく、生徒の主体的な学びとすること」、「『学ぶ』ことは、おもしろいこと⇒ 教員は引率じゃない」「なりゆきまかせの客体から、自らの歴史をつづる主体へ」などを大切にすること。
- ・これ以外の詳細な事項は、企画運営委員会を通じてその都度決定していくこととする。

2) 「企画運営委員会」の関連図

高校・大学・地域の三者連携の関係を以下の図に表してみた。

この図では、三者の連携をとりまとめ、調整する組織を「企画運営委員会」と表示し、KOKÔ 塾だけでなく「KOKÔ 学」に関連する連携にも関わるようになっており、地域関係ではさまざまな関係機関・団体との連携を視野に入れるとともに、可能であれば、これまで KOKÔ 塾のオリエンテーションやジョイントフォーラムなどに出席し連携して取り組んできた紀の川市や JR なども連携の視野に入れている。



3) 総合的探求の時間「KOKÔ 学」との連携

- ・従来の「KOKÔ 塾企画委員会申し合わせ」は、継続することとする。
- ・事務局は高校と和大が共同で処理する。将来的には、独自の事務局体制の確立が必要。
- ・実行委員会は、連携事業の必要に応じて設置する。

3. これからの KOKÔ 塾の可能性についての検討

クラブ化することによってのデメリットは生じるが、毎日の活動が可能となり、今まで以上に充分に時間を使って企画を考え、活動範囲を広げていけるのは事実である。また総合的探求の時間「KOKÔ 学」が生まれることによって、その内容を全校生徒に伝えていくことも今までにない発展となるだろう。また和歌山大学との共同の中で、KOKÔ 塾を単なる課外活動として連携するのではなく、一つの学問的な研究対象の軸として考えてもらい、他校や学校以外の地域の組織に広げることによって、和歌山県全体、引いては全国にもネットワークを広げていくことを目標としたい。具体的には以下にあげる。

- 和歌山大学の人材による公開講座の実施
- 高校生を対象にした「出前講座」……以前、近大生物理工学部との連携で実施していた。
- 地域の大人たちと高校生を対象にした「公開講座」……高校の地域貢献と大人のまなびづくり。
- 「KOKÔ 学」への貢献……大学や地域を高校生の探求的な学びに導入。
- 県内外の高校との交流……KOKÔ 塾の学びを拡げ、深化を図る。
- 県内外における大人と高校生のフィールドワーク……以前は数回実施していた。
- まちづくり・環境・福祉・その他の分野で特色ある取組を調査。
- 大学だけに頼らず、高校の先生方の専門性や地域の企業やNPO等の取組を生かしたワークショップの可能性もある。
- 最後に、KOKÔ 塾は、すでに「高校だけのもの」ではなく、教職員・生徒・卒業生・保護者・地域(個人・団体)・同窓会・地元小・中学校・和歌山大学など、さまざまな個人・団体が共同で創造してきたものであることをもう一度確認し、一人ひとりが主体的に選択できる柔軟さを持って、全体を貫く理念(願い)が生きるものにしていくことを目標とすること。

KOKÔ 塾企画委員会申し合わせ

(名称)

第1条 本会は、KOKÔ 塾「まなびの郷」企画委員会（以下「委員会」という）と称し、本申し合わせにより委員会について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 委員会の趣旨は、和歌山大学と和歌山県立粉河高等学校及び地域が連携して、生徒・学生・地域住民たちに「本物の学び」体験と地域づくりの共同学習を展開する手作りの「まなびの郷」である。また、地域生活文化への関わりを通して高校・大学・地域改革を行うとともに、年齢・職業・分野・地域等を越えた地域活性化のための共同学習＝「地域づくり学習」の場を提供することを目的とする。

(事業)

第3条 委員会は、前条の目的を達成するために次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 高校を「学びの居場所」すなわち地域コミュニティのひとつの核とする事業
- (2) 地域の異世代、異分野の人々が主体的に参画する地域共同学習の場を創る事業
- (3) 双方の教育研究能力を活用して地域連携力を高め住みよい地域づくりに貢献する事業
- (4) 自らの关心や疑問、学びに関する希望を出し合い、方向性を持たせる独自のプログラムづくりを行うため、ワーキング・グループを創る事業
- (5) 各ワーキング・グループ活動の交流を図るために、合同ワークショップを開催する事業
- (6) 各ワーキング・グループ活動内容発表のために、ジョイントフォーラム、シンポジウムを開催する事業
- (7) その他、KOKÔ 塾「学びの郷」の目的を達成するための事業

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 地域づくり学習の企画に関する事項
- (2) ワーキング・グループに関する事項
- (3) 合同ワークショップに関する事項
- (4) ジョイントフォーラム、シンポジウムに関する事項
- (5) その他、KOKÔ 塾「学びの郷」の目的を達成するために必要な事項

(組織)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 高校生
- (2) 粉河高等学校教職員
- (3) 地域住民
- (4) 大学生・大学院生
- (5) 和歌山大学教職員
- (6) 行政関係者
- (7) その他

(役員)

第6条 委員会は、高校・大学・地域の代表世話人制をとる。

(会議)

第7条 委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、代表世話人の決するところによる。

(委員以外の出席)

第8条 委員会が必要と認めた場合は、委員以外の出席を求め、意見を聞くことができる。

(事務)

第9条 委員会の事務は、粉河高等学校及び和歌山大学紀伊半島価値共創基幹で処理する。

(雑則)

第10条 この申し合わせに定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が定める。

附則

- 1 この申し合わせは、平成20年6月14日から施行する。
- 2 第9条の事務の細則は、和歌山大学機関名称の変更による。

KOKÔ塾『まなびの郷』2020年度

Zoom

\オンライン開催/

高大地域連携ジョイント・フォーラム

持続可能な

学校づくり・地域づくり

KOKÔ塾は
来年度20年目

参加無料



挨拶、趣旨説明

第一部

13:00 ~

13:15 ~ 14:15

まなびの郷 KOKÔ塾の取り組み

高校生による発表、地域からの報告

第二部

串本古座高校 CGS部の取り組み *CGS...Community general support
高校生による発表、KOKÔ塾OBの教諭によるメッセージ

第三部

14:20 ~ 15:20 ※リモートによる講演 (45分)

ドイツの高校生企業活動「持続可能な生徒企業」講演

講師：高雄綾子氏（フェリス女学院大学国際交流学部・准教授）

- ・高校生企業活動の概要と、ESDとしてのアプローチの理論的背景
- ・いくつかの実践紹介
- ・活動を支える地域のサポーター「マルチプリケーター」
- ・参加者から質疑、全体コメント (10分～15分)。

閉会挨拶

15:25 ~ 15:55

KOKÔ塾に関わってきた地域、先生、OBたちの思い

講演

地域発展学習セミナー

ドイツの高校生企業活動「持続可能な生徒企業」

高雄綾子氏（フェリス女学院大学国際交流学部准教授）

東京大学大学院教育学研究科修士課程修了。専門は、環境教育、ドイツの持続可能な開発のための教育。主な著書・論文に、「ドイツにおける環境NPOと地域社会の相互的発展構造」（『NPOと社会教育』、東洋館出版社、2007年）、「グローバリゼーション下での地域発展における社会的格差は正への取組とESD実践の関係」（『環境教育』第48号、2012年）、「ドイツ・脱原発への市民の学習：リスク認識から地域再生へ」（『地域学習の創造：地域再生への学びを拓く』、東京大学出版会、2015年）など。

特に地域社会における環境教育を通じた持続可能な地域づくりに関心を持っている。

高雄綾子氏よりコメント

学校は勉強するところ、お金儲けなんてとんでもない！という考え方から、少しだけ離れてみませんか？

生徒が中心となって企業活動をしながら、地域社会にとってとても重要な経済の役割を学ぶ学校がドイツにあるのです。どんな活動をしているのか、具体的にご紹介します。

KOKÔ塾「まなびの郷」とは

高校 「荒れた学校」を再生したい

地域 地域を元気に、活性化したい

大学 「一方的な知の伝授」ではない、地域発展学習の創造を
…願って、めざして、協力して、共に創って、もうすぐ20年
ニューノーマル時代の新たな学校と地域の連携の在り方を探る

主催 | 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹Kii-Plus
和歌山県立粉河高等学校

2021.3.6



13:00-16:00

Zoom入室は、15分前から受付

Zoomによるオンライン開催です。
メール、またはファックスにて、氏名、メールアドレス等を
記入し申し込んでください。

申込み
和歌山大学紀伊半島価値共創基幹Kii-Plus
生涯学習・リカレント教育推進室
〒640-8510 和歌山市栄谷930番地
mail : lifelong@ml.wakayama-u.ac.jp
TEL 073-457-7152 FAX 073-457-7167



▲こちらからも
メールを送信できます。

申し込み方法 下記のいずれかの方法で必要事項を入力して申し込んでください。事前申し込みのみ可。当日の申し込みはできません。
メール（上記 QR コードからもメールを送れます）またはファックスにて、氏名、メールアドレス等を記入し申し込んでください。

申し込み期限：2021年3月3日(水)

17:00まで 参加無料

申込票

必要事項をご記入の上、FAXにて送信するか、下記内容をメールにてお申し付けください。

氏名（ふりがな）

TEL

E-mail

所属

※このお申し込み情報は本企画開催の目的以外では使用しません。

発行日 2021(令和3)年4月1日

発 行 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 Kii-Plus
〒640-8510 和歌山市栄谷930
TEL 073-457-7166 FAX 073-457-7167
<https://www.wakayama-u.ac.jp/region/>

和歌山県立粉河高等学校
〒649-6595(学校専用) 和歌山県紀の川市粉河4632番地
TEL (0736)73-3411 FAX (0736)73-3412
e-mail postmaster@kokawa-h.wakayama-c.ed.jp

印 刷 社会福祉法人 一麦会
麦の郷印刷
〒649-6338 和歌山市府中1167-1
TEL 073-464-3707 FAX 073-464-3708